

わかりやすく、楽しく伝える県広報誌

美ら島沖縄

ちゅらしまおきなわ



那覇市

おきなわの彩

[那覇市 首里金城の大アカギ]

特集

9月は世界
アルツハイマー月間です

企画

〈進め! うちなー調査隊〉
いざという時に身を守る
災害に強くなるために
必要なことは?

読者
プレゼント

抽選で10名様に!

詳細はP15をCHECK



感染症研究センターのご紹介

令和5年4月1日、うるま市にある県衛生環境研究所内に「感染症研究センター」が設置されました。

1 感染症研究センターの設置の背景

これまで、県衛生環境研究所では県内で発生した感染症の病原体検査や、感染症の情報発信を行ってまいりました。新型コロナウイルス感染症の流行により、さまざまな課題が生じたことで、これまで以上に感染症への対策強化が必要となつていきます。



そこで、感染症の早期探知やリスク評価、予防策などの検討を継続的に担う体制の整備、公衆衛生人材を育成する拠点の確保、沖縄県感染症ネットワーク（仮称）の構築などに取り組むため、新たな組織として「感染症研究センター」を設置することとなりました。

2 感染症研究センターの組織体制

感染症研究センター室長の下、研究主幹を配置し、疫学情報グループと病原体解析グループで構成されています。さらに、病原体解析グループはウイルスチームと細菌チームで構成されます。

3 感染症研究センターの特徴

感染症の詳細を把握するため、これまで別々だった疫学情報分野と検査分野を統合し、相互連携を図っています。また、次世代シーケンサー（NGS）を用いた高度技術による病原体解析を実施しています。

公衆衛生人材の育成のため、国

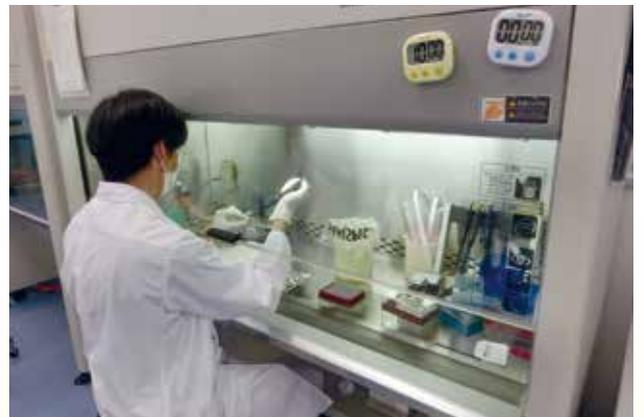


次世代シーケンサー(NGS)を用いた病原体解析

立感染症研究所が令和5年度から一部の協力自治体において研修を展開するFETP（実地疫学専門家養成コース）拠点を、沖縄県と大阪府で本格的に運用を開始しており、「感染症研究センター」ではこの研修制度と連携しています。

4 今後の展望

沖縄は国内でも特殊な地理的、地勢的位置にあり、感染症の流行に対する公衆衛生の研究拠点となるポテンシャルを秘めています。そのため、県では「感染症研究センター」の機能強化を進め、感染



安全キャビネットでの検体処理

症ネットワーク構築に向けて、国内外との交流を推進し、新たな病原体侵入による影響の分析、効果的な対策及び予防策を検討していきます。また、FETPを修了した疫学専門家による実践的な研修を行い、公衆衛生人材を育成していきます。

県内における感染症対策の推進に向けた今後の取り組みについてご期待ください。

詳しくは、県衛生環境研究所ホームページをご覧ください。



衛生環境研究所ホームページ

問い合わせ ワクチン・検査推進課 電話：098-866-2013 FAX：098-869-7100

7/3-5 玉城知事が中国を訪問

河野洋平元衆議院議長を団長とする日本国際貿易促進協会の訪中代表団が、中国の北京市を訪問しました。

訪中国に参加した玉城知事は、政府関係者などとの会見を通して、沖縄と中国を結ぶ航空路線の復便や、渡航ビザ申請手続きの簡素化など、観光・経済・文化をはじめさまざまな分野における交流の活性化について提案しました。

李強首相は、県の提案を研究する意向を示されたほか、商務部の王文涛部長からは、県と福建省の経済交流を支援



李強首相と会見した河野団長と玉城知事

する旨の発言がありました。

今後、沖縄と中国の円滑な往来が実現し、多面的な交流がさらに発展することが期待されます。

7/11 沖縄子どもの未来県民会議 令和5年度第1回総会

玉城知事は、4年ぶりに開催した「沖縄子どもの未来県民会議令和5年度第1回総会」へ出席しました。

115団体で構成する県民会議の会長を務める玉城知事は「沖縄の未来を創造する子どもたちが安心して暮らし、夢と希望をもって成長していける社会の実現を目指して、引き続き県民一体となって子どもの貧困解消に向けて取り組むため、県民会議会員のご理解とご協力をお願いします」とあいさつしました。

総会では、令和4年度事業実績などの報告があったほか、子どもの未来を応援するメッセージが承認、発信されました。



玉城知事あいさつ

7/13 3社共同整備による 光海底ケーブルの完成報告

沖縄セルラー電話、NTT西日本、ソフトバンクの3社は、共同で整備を進めてきた沖縄本島、石垣島、宮古島、久米島を結ぶ大容量光海底ケーブルの完成を玉城知事に報告しました。



3社から玉城知事への完成報告

この整備により、離島地域での本格的な5Gの展開などのサービスが可能となり、離島地域の活性化が期待できます。

玉城知事は「離島振興に情報通信基盤の整備は欠くことのできない重要な社会基盤の一つだと考えています。今回の整備により都市部と同等の通信環境が整い、離島における産業等の展開が促進されることを大いに期待しています」と述べました。

7/13-14 分蜜糖製糖工場安定操業対策に関する要請

玉城知事は7月14日、沖縄県農業協同組合中央会の普天間朝重代表理事会長とともに農林水産省を訪れ、角田秀穂農林水産大臣政務官に「分蜜糖製糖工場安定操業対策に関する要望書」を手渡しました。

玉城知事は「特に対策に緊急性を要する製糖工場整備にかかる事業費は、既存事業で対応するには地元負担が過大な負担となり事業実施が困難な状況にあります」と述べ、



角田政務官へ要望書を手交する玉城知事

補助率の更なる高上げと十分な予算確保を要望しました。

また、前日の13日には、池田副知事が望月明雄内閣府沖縄振興局長に同様の要望を行いました。

9/2023 September 美ら島沖縄 [ちゅらしま おきなわ] vol.576

02 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画／実施計画
感染症研究センターのご紹介

03 県政フラッシュ

04 特集：9月は世界アルツハイマー月間です

06 進め!うちなー調査隊

いざという時に身を守る 災害に強くなるために必要なことは?

08 保育士として働きませんか?

09 県の動き1 動物愛護週間(9月20日~26日)

県の動き2 9月は「障害者雇用支援月間」です

10 市町村ワードパズル [金武町]

11 県の動き3 しまくとぅば県民大会の開催

12 情報ひろば

14 県の動き4 沖縄本島中南部都市圏パーソナルトリップ調査にご協力ください

15 読者プレゼント・広報課から9月のお知らせ・読者の声

沖縄の人口・世帯の動き
2023年7月1日現在

146万7,519人
総人口 ※前月比510人増加

63万9,256世帯
世帯数 ※前月比787世帯増加

沖縄県庁広報課
公式LINE
@okinawa-government



沖縄県庁広報課
公式ツイッター
@okinawa_pref



今月の表紙

おきなわの彩

「那覇市 首里金城の大アカギ」

撮影：小早川 渉

推定樹齢は200年以上、幹の高さは約20メートルの大アカギが5本自生する大木群。国指定天然記念物です。



本号の電子Book版とバックナンバーはホームページでご覧いただけます。

【美ら島沖縄の設置場所】

美ら島沖縄



県内コンビニ、モノレール各駅等で無料配布しています。また、公共機関や銀行、病院など多くの方々が利用する施設でもご覧いただけます。新規設置施設も受付致しておりますので、関心のある方は広報課までご連絡ください。なお、全世界向けの戸別配布は致しかねます。ご了承ください。

9月は世界アルツハイマー月間です

認知症の人たちの声を聞いて認知症の理解を深めよう

急速な高齢化の進展に伴い、認知症になる人も増加しています。そのような状況を踏まえ、令和5年6月16日には「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が公布され、認知症に関する正しい知識や理解を深めるよう努めることが国民の責務とされました。一方で、認知症とはどのような病気であり、どのようなサポートが必要なのかについて

では、まだよくわからないという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。県民一人一人が認知症について正しい知識をもち、助けあうことができれば、認知症の人とその家族も住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができます。認知症になっても安心して暮らせる社会の実現に向けて、認知症について正しい理解を深めましょう。

認知症とは…？

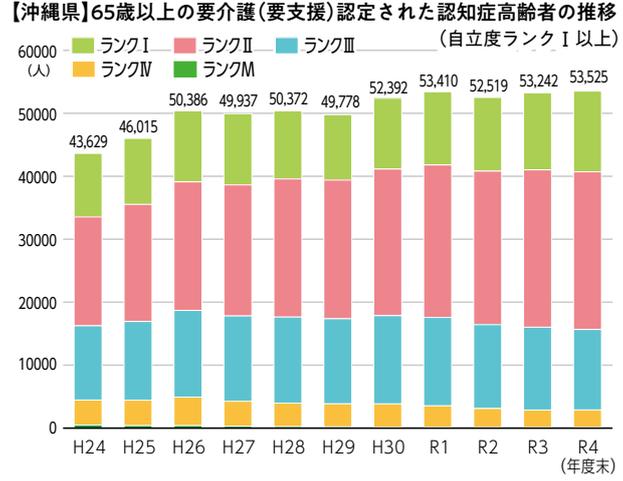
認知症とは、誰にでも起こりうる脳の病気です。脳血管疾患、アルツハイマー病などさまざまな原因で、脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりすることで、生活する上で支障が出ている状態がおよそ6か月以上継続している状態をいいます。

令和4年度末時点で、県内の要介護（要支援）認定を受けている65歳以上の高齢者約6万2千人のうち、約5万4千人が何らかの認知症があると判定されています。

世界アルツハイマー月間

1994年「国際アルツハイマー病協会（AD）は、世界保健機関（WHO）と共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定し、この日を中心に認知症の啓発を実施しています。また、9月を「世界アルツハイマー月間」と定め、さまざまな取組を行っています。

県内でも関係機関及び団体が毎年イベントや活動を実施し、認知症の啓発に努めています。



出典：要介護（要支援）認定を受けている人の「認知症高齢者の日常生活自立度」調査結果（沖縄県調査）

認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

自立度	日常生活自立度 I から M に該当しない（認知症を有さない）方
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的に ほぼ自立している 。
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、 誰かが注意してれば自立できる 。（a = 家庭外で b = 家庭内でも）
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、 介護を必要とする 。（a = 日中を中心に b = 夜間を中心に）
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、 常に介護を必要とする 。
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、 専門医療を必要とする 。

世界アルツハイマーデー／世界アルツハイマー月間リーフレット

正しい認知症の 理解と対応を！

認知症の本人とご家族の方
などの話を聞いてみました

認知症の人は認知機能が低下していますが、周囲の理解と気遣いがあれば地域で暮らし続けることができます。また、家族や介護者の適切な対応によって、認知症の進行を緩やかにすることや症状が軽くなることもあります。

今回、認知症の人と家族の会沖縄県支部が主催する認知症カフェ（ひまわりカフェ）に参加している認知症の本人やその家族の方などのお話をご紹介します。

認知症の本人 新里勝則さん

認知症とわかったときはショックだった。最初は認知症と認めたくなかったので、認知症カフェに参加するのも嫌だった。しかし、認知症でも頑張っている人の話を聞いているうちに自分もできるのではと思うようになった。認知症になると何もできないと思われているが、自分は身の回りのことは普通にできるし、ある程度のことはできる。認知症の方はぜひこういった認知症カフェに参加してもらいたい。

認知症の人の家族 新里初美さん

夫が認知症になるとは想像もしていなかった。最初はどうすればいいのかわからず不安だったが、認知症の家族がいる先輩方の経験談や助言を聞いて、徐々に受け入れることができるようになった。今は気も遣わず言いたいことを言いあえて、けんかをすることももあるが、笑いながら生活できていて幸せ。今後は、自分たちが認知症の本人や家族の方に、これまで教えてもらったことや経験を還元できるように、みんなが集まれる場所をつくって恩返ししたい。



インタビューに
答えていただいた
新里勝則さんと
初美さんご夫婦

ひまわりカフェの主催者

認知症の人と家族の会 沖縄県支部 代表 鈴木伸章さん

ひまわりカフェは、ひとりで家にこもらず、笑顔でみんなと語り合いながら、食べたり、遊んだり楽しくなれるような会を開催しています。また、認知症の知識を持った人がいろいろな相談にもものってくれるので、1人で悩むことなくぜひ参加してもらいたいです。

認知症カフェ



認知症カフェとは、認知症の人、家族介護者や友人、地域住民、専門職など年齢や所属、地域に関係なく身近で入りやすい場所で開催される集いの場です。参加者はお互いにコミュニケーションや情報交換を気軽に行うことができます。



認知症に関する本人及び
家族の相談会の様子



参加者でシャッフルゴルフを
楽しんでいる様子

ひまわりカフェ問い合わせ (公社) 認知症の人と家族の会 沖縄県支部 (代表 鈴木伸章) 電話：090-3007-2097

県の認知症に関する取組

県では、認知症の人が自らの体験を「自身の言葉で語っていただく」「沖縄県認知症希望大使」を、令和5年9月(予定)に県内で初めて委嘱するなど、認知症に対する県民の理解を促進する取組を進めていきます。

みなさんいかがでしょうか。周囲の理解やサポートがあれば、認知症になってもできることをいかしながら、希望や生きがいを持って暮らしていくことも可能です。

今回の世界アルツハイマーデー及び世界アルツハイマー月間を契機に、認知症を身近なものとして実感し、今まで以上に関心をもっていただければと思います。

認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成するための講座の受講を「希望の場合」には、在住、在勤または在学している市町村事務局へお問い合わせください。

問い合わせ 高齢者福祉介護課 電話：098-866-2214 FAX：098-862-6325

進め!

うちなー調査隊

県内の気になるコト・モノを知れば
沖縄がもっと面白くなる!

楽しく学ぶ!

証言を基に開発した 防災体験プログラム



(写真提供:NPO法人地域サポートわかさ)



いざという時に身を守る 災害に強くなるために必要なことは?

大地震や津波、大雨による土砂崩れなど、災害はいつ起こるか分かりません。命や財産を守るためにも、日頃から災害に備えることが大切です。毎年9月は防災月間。この機会に、防災について考えてみましょう。



まずは意識することが 防災への第一歩

災害への備えはできていますか? 「沖縄は地震が少ない」と思われがちですが、2022年に沖縄で震度1以上の地震が観測された回数は153回。都道府県別では9番目に多い数字です。県が2013年度に実施した地震被害想定調査によると、本島南東沖の3か所を震源とする地震が連動して起きた場合、地震の規模を示すマグニチュードは最大9・0になると予測しています。

海に囲まれた沖縄では、大規模災害の発生時に空港や港湾が被災すると、緊急物資や資機材輸送、救助活動のための人材輸送に遅れが生じる可能性があります。そのため、県では最低7日分の食料や飲料水といった生

活必需品の備蓄を推奨しているほか、避難する場所や手段を確かめておくよう周知しています。台風対策だけではなく、地震や津波などの災害に備えて、普段から防災について意識することも大事です。

地域住民が協力し 助け合う「共助」が大切

災害発生時、地域や近隣に住む人々と協力し合い、助け合うことを「共助」といいます。もし被災した場合、行政の支援を待ち続けるよりも、「自分の身は自分で守る」という「自助」や、「自分たちの地域は自分たちで守る」という「共助」を考えた方が被害を最小限に食い止める近道になります。

自治会などが主体となり、地域防災を支える組織を「自主防災組織」といいます。防災士の

資格を持つリーダーを中心に、平時にはその地域に特化した情報を集め、独自に防災マップを作成したり、防災訓練を実施。災害時には被害状況や避難状況を伝え、初期消火や救出作業など、命を守るためのさまざまな活動を行います。

災害に備えた 県の取組

県では、災害被害を最小限に抑えられるよう、消防や警察など関係機関と連携し、地震発生直後からの活動を想定した訓練（住民避難訓練や傷病者の救出・救護訓練など）を実施しています。それでも、災害発生時には行政や防災関係機関による支援が充分に行き届かない場合も想定されます。だからこそ、県民一人一人による、日頃からの災害への備えや心構えが大切です。

開催するには
どうしたらいいの？

NPO法人地域サポートわかさでは、研修会の開催や資機材を貸し出すなど、リッカ！ヤールーキャラバン！開催に向けたお手伝いをしているよ。各地に防災の輪が広がっていくといいね！

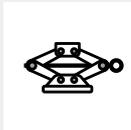


プログラム内容を一部ご紹介！



ヤールー体操

バケツリレーや落下物から頭を守る動きなどを組み込んだ準備体操。



ジャッキアップゲーム

テーブルの下敷きになったヤールー(ヤモリ)の人形をジャッキアップを使って救出する。



毛布で担架トライアル

毛布を使って担架を作り、怪我人に模したヤールー人形を運ぶ時間を競う。

CASE 1



[防災]

NPO法人地域サポートわかさ
<https://cs-wakasa.com/ryc/>

ホームページ



ゲーム感覚で防災を知る リッカ！ヤールーキャラバン！

NPO法人地域サポートわかさが2016年から始めた防災イベント。阪神淡路大震災の教訓や知恵を伝えるために誕生した防災イベントをアレンジ。「消火」「救出」「備え」をテーマにしたプログラムをゲーム形式に仕立てていて、ゲームに参加するとポイントがもらえ、おもちゃと交換できるなど、子どもたちも楽しみながら防災知識を学べる。

災害時に地域を支えるさまざまな取組

CASE 3



[自治会]

糸満市・西崎ニュータウン自治会



(写真提供:糸満市)

住民の手で、防災に強いまちづくりを実現

海拔3.2メートルと低く、多くの高齢者が暮らす糸満市の西崎ニュータウンでは、自治会が中心となって2008年に自主防災組織を結成。住民がすぐに避難できるように民間アパートを一時避難場所として活用するため、管理する不動産業者と協定を結ぶなど、自主的な防災活動を続けている。年2回の防災訓練では住民に興味を持ってもらえるように、ドラム缶風呂やペット同伴の訓練など内容を工夫していて、200人以上の地域住民が参加している。

独自の取組を通して
地域の安全は地域で守る！

CASE 2



[ラジオ]

FMよみたん

<http://www.fmyomitan.co.jp/>

ホームページ



災害情報はここから！
地域防災を支える大黒柱

ラジオを通して地域とつながるコミュニティ放送局

台風や地震などの発生時に、地域にとって必要不可欠な情報を即応して届けるコミュニティラジオ。2008年に開局したFMよみたんでは、台風時に番組スケジュールを災害放送に切り替え、役場や警察、消防、気象庁、停電情報のほか、生活に必要な給油所や店舗の開店情報などを伝え、災害時に必要な情報を放送する。東日本大震災を機に始まった防災情報番組「災害時は786」は防災士がパーソナリティを務め、自・共助・公助など防災に備えた内容を放送している。

進め！ うちなー調査隊 まとめ

地震や津波など突然起こる災害は、
日頃の防災活動で乗り越えよう！



- ✓ 食料品の備蓄や防災訓練に参加するなど、普段から防災意識を持つことが大切。
- ✓ 住民同士で声を掛け合い、地域のつながりを深めていくことが「共助」につながる。



保育士として働きませんか？



待機児童数と保育現場の現状

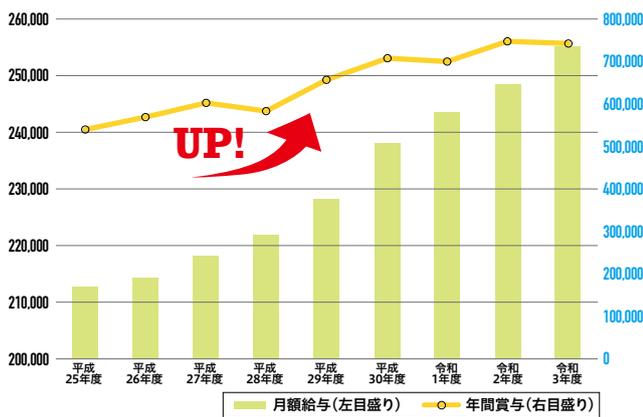
県では、保育所などの整備が進み、待機児童数は減少傾向にある一方で、保育士不足により、依然として待機児童解消には至っていません。

保育士は「給料が安い」「業務量が多い」などのイメージを持つ方もいらっしゃるかもしれませんが、近年は給与などの処遇改善がなされているほか、保育補助者の配置や年休・産休などを取りやすくするための代替保育士の配置、業務効率化のためのICT化を進めるなど、業務負担の軽減に取り組む施設も増えています。

共働きや病気などにより保育を必要とする家庭を支える保育所などは非常に重要であり、なによりも、保育士は子どもたちの成長を感じることでできる魅力的でやりがいのある仕事です。

子どもたちの笑顔とともに、保育士として働きませんか？

保育士平均月額給与及び年間賞与推移



出典：賃金構造基本統計調査（厚生労働省）をもとに作成

沖縄県保育士・保育所総合支援センター及び情報発信アプリ「おき保」の紹介

沖縄県保育士・保育所総合支援センターでは、保育に関する知識や経験が豊富なコーディネーターを中心に、求人情報の提供、個別の就労支援、保育士の離職防止や労働環境の改善のための相談、好事例の情報提供などそれぞれのニーズに応じた支援を行っていますので、お気軽にご相談ください。

また、情報発信アプリ「おき保」では、求人情報の検索、各市町村の施設紹介動画の閲覧や、センターが実施する「見学ツアー」「合同就職説明会」の情報、「よくある質問」を手軽に閲覧できます。

これから保育に携わりたい方、現在保育に携わっている方々に役立つ情報を届けていますので、ぜひダウンロードしてください！



沖縄県保育士・保育所総合支援センター

那覇市小禄1831-1
沖縄産業支援センター4階413号室
電話：098-857-4001



問い合わせ 子育て支援課 電話：098-866-2457 FAX：098-866-2433

広告